

金沢錦丘中学校・高等学校



金沢錦丘高等学校は、昭和38年に全日制高等学校として発足し、翌年に現在地に校舎を移転し、金沢市南部の閑静な住宅街に位置する伝統的な基幹校として現在に至っている。

平成16年、同校は県立校初の併設型中高一貫校とすることが決定され、総合的な施設整備に着手・全面改築を行うこととなり、平成22年に完成した。

景観との調和を図り、過度な装飾を抑え矩形を連続させたファサード、色彩も深みや重厚さを感じさせる茶系色を基調とした。



Nスクエア

採光、通風はもとより、校舎全体の一体感を演出する中庭空間(Nスクエア)。

梅がデザインされた校章をモチーフに、紅白の梅とNISHIKIの英文字をインターロッキングブロックにて表現した。

このデザインは建設当時の在校生からデザインを募集し採用されたものである。

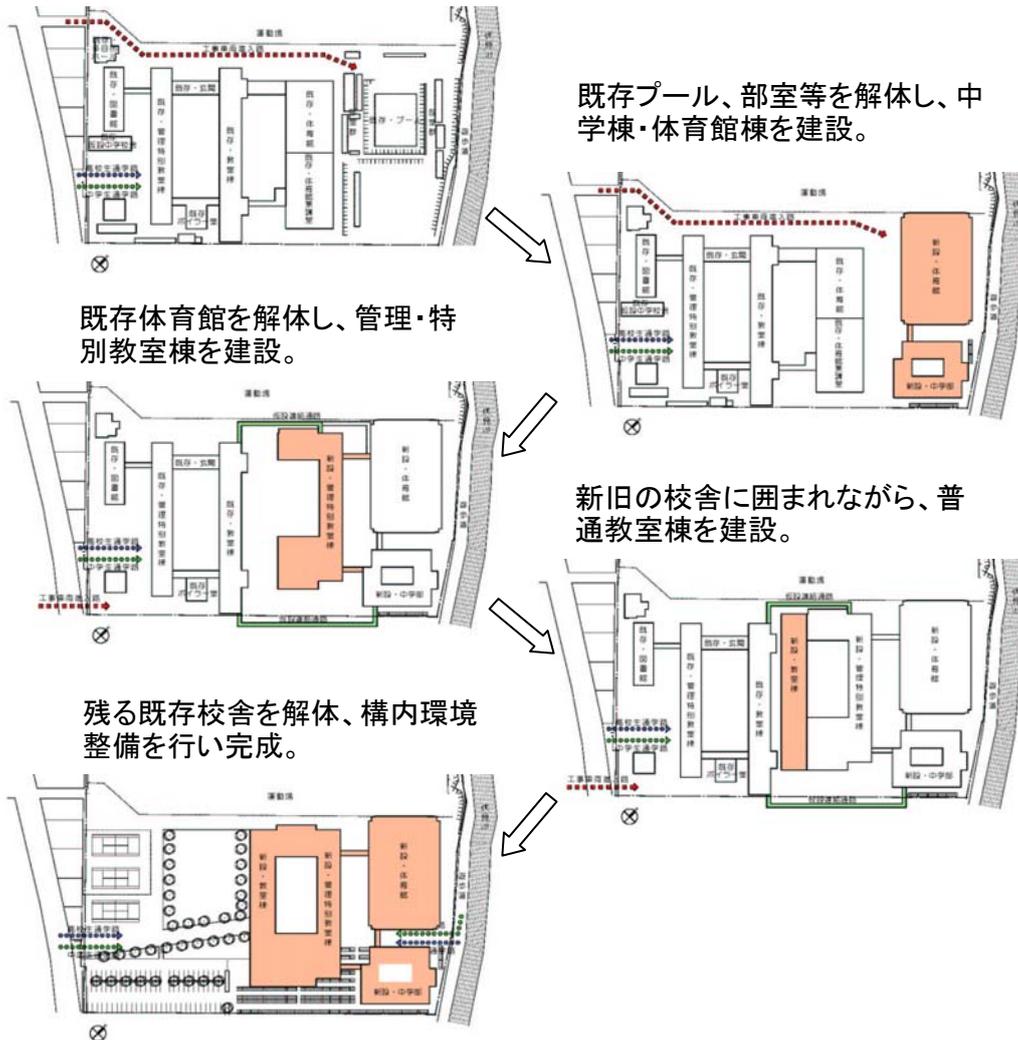
マルチメディアセンター

2層吹き抜けによる開放的な空間を持つ中高共用のマルチメディアセンター。

上階に自習スペースを、下階には図書室とDVD等のメディア鑑賞が可能なスペースを配している。

自然採光にも考慮し、上部にハイサイドライトを設けた。





既存プール、部室等を解体し、中学棟・体育館棟を建設。

既存体育館を解体し、管理・特別教室棟を建設。

新旧の校舎に囲まれながら、普通教室棟を建設。

残る既存校舎を解体、構内環境整備を行い完成。

金沢錦丘中学校・高等学校の生徒が既存校舎・新校舎の一部を利用しながらの建設工事となるため、設計から施工までさまざまな配慮を行った。

授業に必要な教室をはじめとする諸室を確保するため、既設施設の解体時期や建設時期を授業カリキュラムと整合性を取りながら計画し、部分竣工・仮使用を繰り返し行い、また、仮設計画においても生徒や教職員の利便性と安全性を両立させた。

- 体育館・中学棟において、県産材能登ヒバを使用
- 雨水貯留槽を設置し、便所洗浄水として雨水利用
- クールヒートトレンチによる地熱利用
- 屋上に太陽光パネルを設置
- 床タイル、インターロッキングブロック
- 身障者用エレベーター・多目的トイレを設置

DATA	
金沢市窪地内	
平成16年10月～平成22年8月	
のべ21,896.22㎡	(体育館棟)
鉄筋コンクリート造:地上5F	
のべ6,664.11㎡	(中学棟)
鉄筋コンクリート造:地上5F	
のべ3,934.27㎡	(高校棟)
鉄筋コンクリート造:地上5F	
のべ11,297.84㎡	